

こども宅食

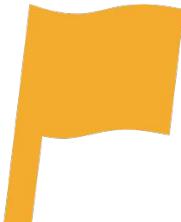
全国実施者ネットワーク

エリアミーティング



1.はじめに

エリアミーティングの目的



ビジョンのすり合わせ

改めて、こども宅食が
目指していきたい
想いや指針を共有する



課題の言語化・共有

皆さんが現場で感じている
課題を吐き出し、活動の
ヒントを持ち帰っていただく



重要トピックの共有

資金助成をはじめ、
こども宅食の活動に関わる
さまざまな情報を共有する

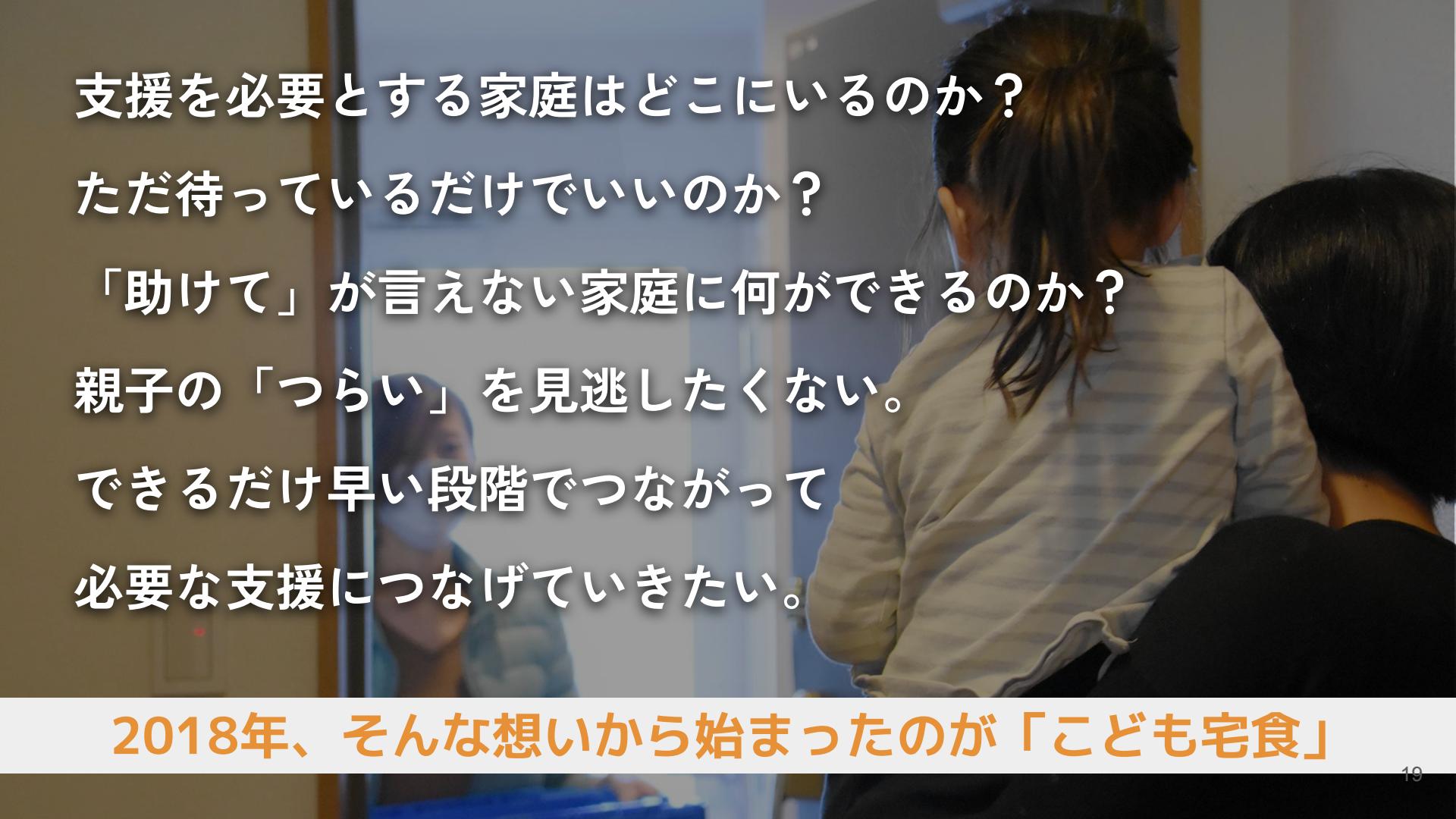


ともに活動の質を向上させ、こども宅食のさらなる波及を目指します

本日の アジェンダ

- 1 はじめに
- 2 応援団が目指していること
- 3 意見交換会
- 4 感想共有
- 5 お知らせ（国の補助金など）
- 6 おわりに

2.応援団が目指していること



支援を必要とする家庭はどこにいるのか？

ただ待っているだけでいいのか？

「助けて」が言えない家庭に何ができるのか？

親子の「つらい」を見逃したくない。

できるだけ早い段階でつながって

必要な支援につなげていきたい。

2018年、そんな想いから始まったのが「こども宅食」

手探りの中、走り続けた3年間

『つらいが言えない親子につながる』

『困ったときに誰かが手をさしのべることのできる社会づくり』

そんな思いを胸に出発し、なんとか走り続けてきました。

当初は知名度も
ノウハウもなく
すべてが手探り。

親子と
繋がるには…？

全国に仲間を
増やすには…？

ヒントは
いつも皆さんの
現場の声でした



そして、いま全国の
80数団体の仲間と
つながることができます



改めて考えたい活動の根っこ

Q なぜ、私たちは
「こども宅食」を
やっているのか？

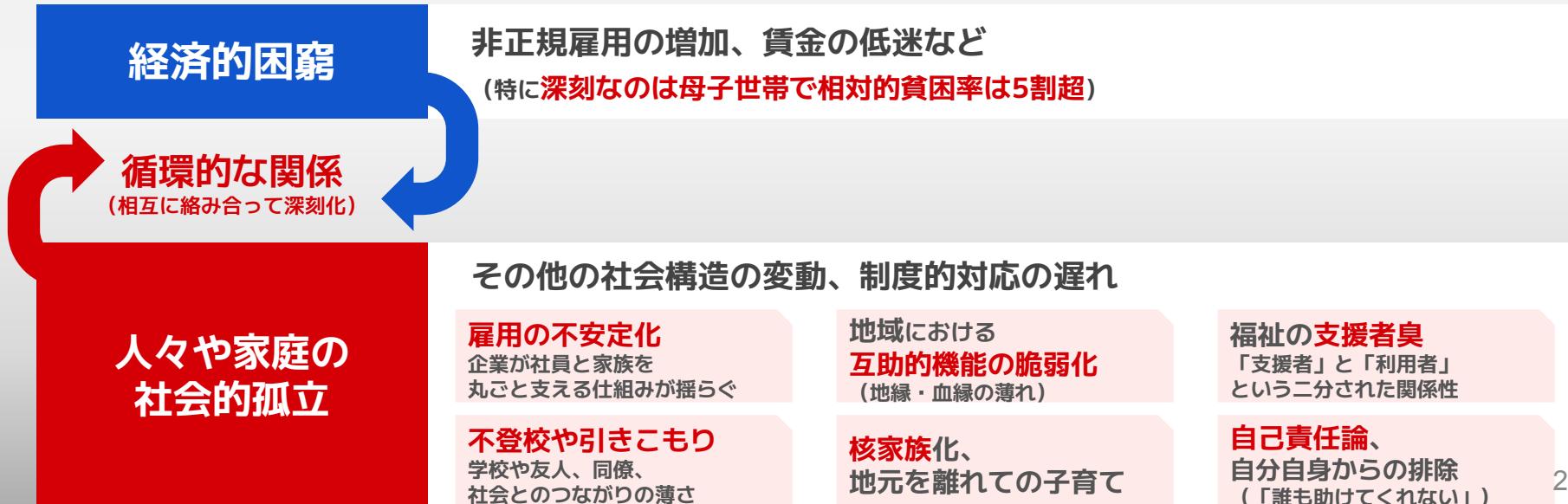
「こども宅食」を次のステージへ。



長い時間かけて改めて整理した「これからのかども宅食」を
皆さんに共有し、ご意見をいただきながらさらに前進していきたい。

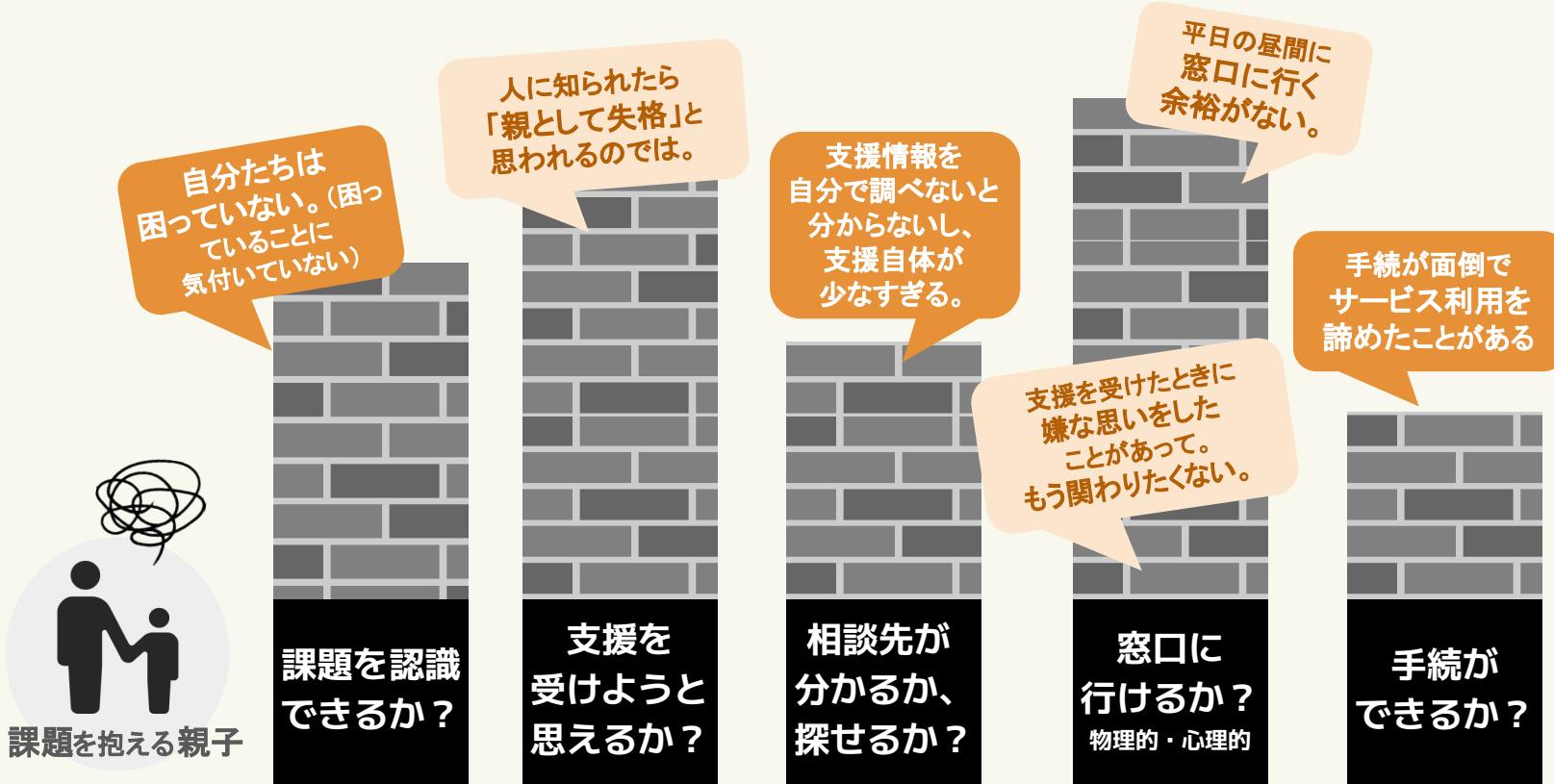
親子が置かれている社会の構造

先行する議論や研究では、“社会的な孤立”と経済的困窮が互いに絡み合って深刻化することが指摘されている。“社会的な孤立”は、社会構造の変動や制度的対応の遅れなどの要因から生じ、「困っているなら援助を求めればいい」とはいかない。



支援や相談を阻む、様々な障害

これらの障害を乗り越えた人だけが、支援を受けられる構造にある



これからは「生活困窮者自立支援」から 地域共生社会・重層的支援体制整備事業へ

対人支援において、今後求められるアプローチ

具体的な課題解決を目指す 課題解決型支援

- ・本人が有する特定の課題を解決することを目指す
- ・それぞれの属性や課題に対応するための支援（現金・現物給付）を重視することが多い
- ・本人の抱える課題や必要な対応が明らかな場合には、特に有効



つながり続けることを目指す 伴走型支援

- ・本人と支援者が継続的につながることを目指す
- ・暮らし全体と人生の時間軸をとらえ、本人と支援者が継続的につながり関わるための相談支援（手続的給付）を重視
- ・生きづらさの背景が明らかでなかったり、複合的な課題など、ライフステージの変化に応じ柔軟な支援を要する際に有効

New!

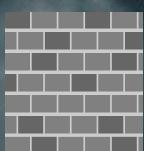
個人が自律的な生を継続できるよう、本人の意向や取り巻く状況に合わせ、
2つのアプローチを組み合わせていくことが必要。



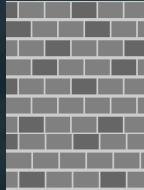
- 母親に軽度の知的障害がある、ひとり親家庭。
保育所から「子どもが食べていない様子なので、
様子を見に行ってほしい」とこども宅食事務局に紹介があった。
- 本人は、**自分できちんと自活できており、
支援は不要という認識**だが、
食事の提供も含め養育が難しい状況。



定期的なこども宅食の接点を通じ、
信頼関係を作りながら、
徐々に**家事支援や必要な手当の手続き、
子どもたちを学習支援**などにつないだ。

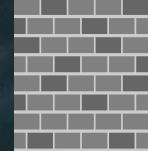


課題を認識
できるか？



支援を
受けようと
思ふか？

相談先が
分かるか、
相談できるか



窓口に
行けるか？
（行政機関）



手続が
できるか？

まさに「12ページ」でお伝えした、
「支援や相談を阻む、様々な障害」の
重複ケースであるといえる。

宅食で目指すもの＝つながる+つなげる

親子の抱える経済的困窮をこども宅食“だけ”で解決するのは厳しい。

（もちろん一部、一時的には改善するものの）。「こども宅食」では、

つながりにくい親子につながるためのアクションをとり（＝アウトリーチ）、
他の必要な支援や、人とのつながりを増やしていく

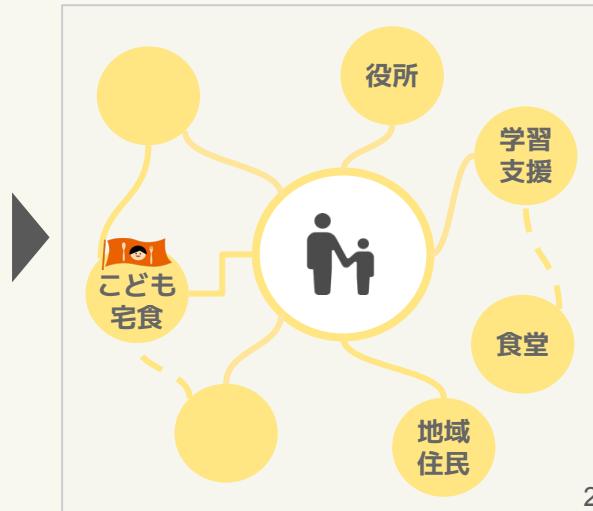
家庭とつながる



関係性を築く 変化を見つける



つなげる・つながりを増やす (専門的支援や、居場所など地域の伴走者に)

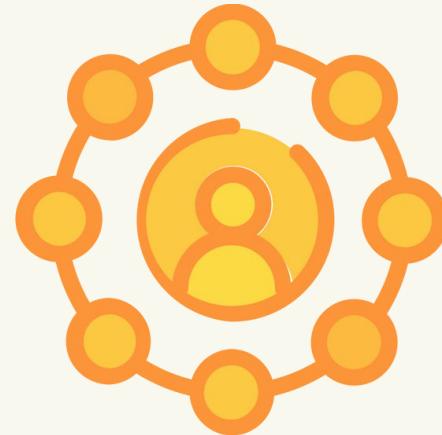


改めて、大切にしたいこと

(アウトリーチで) つながる



(支援や人に) つなげる



経済的困窮・社会的孤立の状態で
つながりにくい子育て家庭を
継続的に訪問し、信頼関係を築く

家庭の変化や問題の予兆に気づき、
支援が届きにくい子育て家庭にとって
必要な**支援や人とのつながりを増やす**

3.意見交換会

意見交換会（各グループ）

テーマ①【自己紹介、みなさんの活動は？】

団体名・名前

都道府県・市町村名（人口規模など）

団体の活動内容（「こども宅食」以外も含めて）

こども宅食を開始したきっかけ

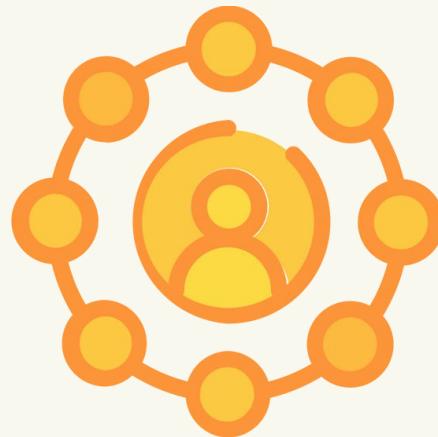
最近のトピックス（嬉しかったこと、苦労したこと、難しかったこと etc）

改めて、大切にしていきたいこと

(アウトリーチで) つながる



(支援や人に) つなげる



経済的困窮・社会的孤立の状態で
つながりにくい子育て家庭を
継続的に訪問し、信頼関係を築く

家庭の変化や問題の予兆に気づき、
支援が届きにくい子育て家庭にとって
必要な**支援や人とのつながりを増やす**

こども宅食に取り組む実施団体の悩み

家庭とつながる

関係性を築く

変化を見つける

つなげる・つながりを増やす

(専門的支援や、居場所など地域の伴走者に)

孤立している家庭を
どうやって
見つければ
いいのか?
(始める前の団体)

行政や支援に対し不信感があり
宅食を毎月持つていっても、
殆ど何も会話できずに
終わります。
続けていいのでしょうか？

宅食で知り合い、
顔見知りになるまではできるが、
その後、一步踏み込んだ関係性を築き、
利用者の支援ニーズを引き出したいが、
ボランティアを通じて実施する取組みで
どこまでできるか……
非常に困難と感じます。

一度支援したら基本的にリピーターとなるので
増える一方であり、宅食の支援だけではなく、
ご家庭が安定した職や経済的な復興をして
宅食支援を受けなくても良くなるように
回復させるところまでするには
どうしたらいいのか悩んでいる

利用者アンケートで
「宅食には大変感謝していますが
配送ボランティアから
『なぜ離婚したのか？』と
踏み込んで聞かれたのは
嫌だったです」との回答があった

「仲良くなろう」と、
求められる物資を
なるべく持っていく配慮をしていたら、
利用家庭の態度が横柄になってきて
「この前の米は不味かった」
「金券がほしい」「お金を貸して等
要求が出てくるように…

不登校、困窮、親が疾患で
ヤングケアラーという子どもに
出会ってしまったが、地域につなぐ
先がなく途方にくれている

宅食で届けていた先の家庭で虐待が起きて児相が動いた。
そこまで大変な家庭だったとは知らずショックを受けている

市の担当課や学校と連携して見守りをしたいが、
NPOなので門前払いをくらった

※
実際にあった
団体からの相談や
対応事例をもとに、
事務局で分かりやすい
ように編集しています

意見交換会（各グループ）

テーマ②【こども宅食の活動における問い合わせ】



（アウトリーチで）つながる

みんなの「工夫」と「悩み」

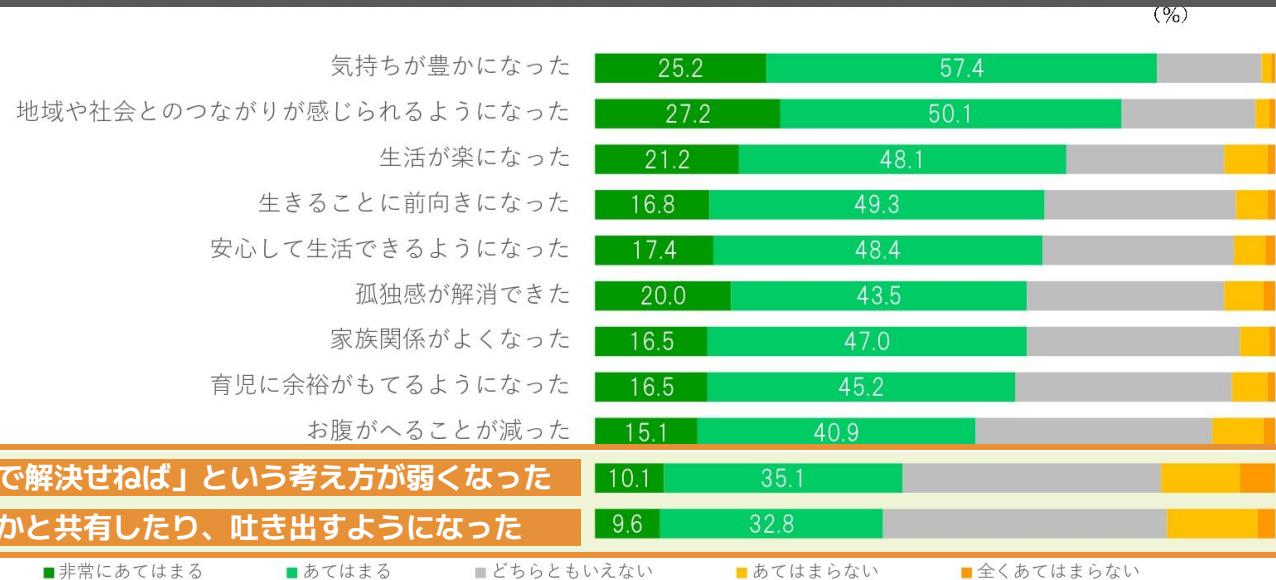


（支援や人に）つなげる

みんなの「工夫」と「悩み」

こども宅食を利用する中で、最初は些細なことでも
「悩みを言う」と「周囲が気にしてくれる、動いてくれる」の呼応が積み重なることで、
本人からのSOSを出す力（援助希求力）も少しずつ変わるのかもしれない

Q.こども宅食を利用してることで、どのような変化が生まれましたか？



「自分で解決せねば」という考え方方が弱くなる、
不安や心配事を誰かに吐き出すなど、「他者との関わり方」への考え方方に変化が！

4. 感想共有（全体）

5.お知らせ（国の補助金等）

こども宅食事業に係る 食品等の物資サポート事業

～アウトリーチ支援へのチャレンジをサポート～

事業目的

- ひとり親家庭など、困難を抱えた家庭
(経済的困窮×社会的孤立)に対する食支援
- 当該家庭に対し食をきっかけとする
アウトリーチ支援を行うことで、
家庭の状況を多角的に把握する

事業期間

2022年7月1日～9月30日まで

※食品等の物資は 8月、9月の配送に使用する分を対象 とする

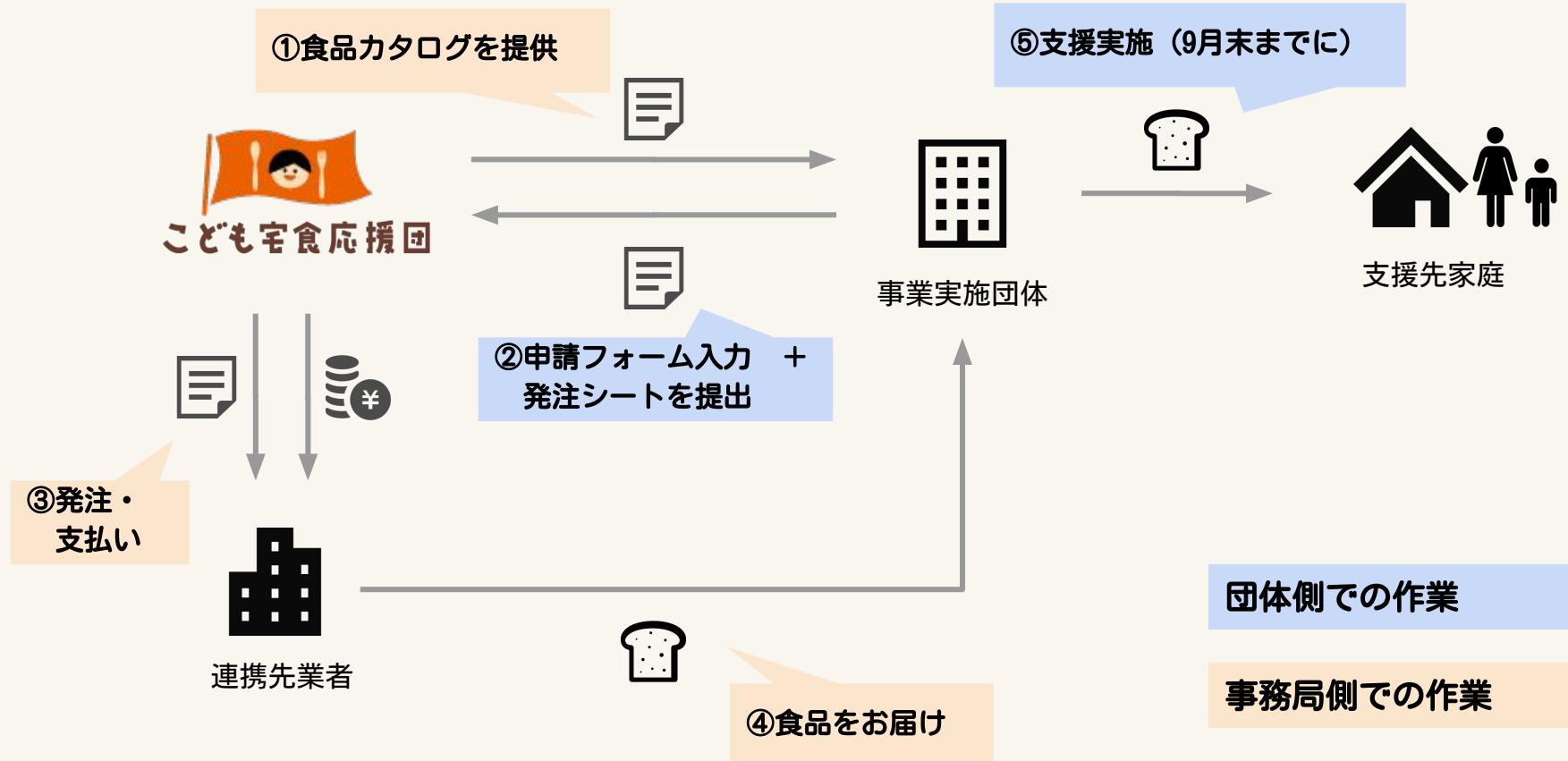
助成内容

資金ではなく、食品など物資によるサポート。

1団体あたり上限600万（2ヶ月分）、1世帯あたり上限8000円/月



食品提供サポート事業イメージ



事業のマスト要件

活動形態

家庭にアウトリーチ（訪問）し、
食品を届けていること

原則として、訪問により
お届けする食品等が対象

支援対象

経済的困難を抱え、適切な支援を受けられていないなど
社会的に孤立した家庭を対象としていること

家庭の状況把握

支援家庭リストを作成していること

連携機関

自治体・専門機関との連携があること



こども宅食の
取組み詳細

例：「こども宅食が目指すことを理解しているか」、
「対象としている子どもの年齢層」、
「家庭のアセスメントができているか」など

事業スケジュール

6月	<p>6月中旬：希望アンケートの実施（物資助成を希望するか）</p> <p>6月末：中間支援法人として、こども宅食応援団が受託決定（厚労省からの委託）</p>
7月	<p>7月1日～8日：本事業の申込み受付 / 希望商品リスト提出（2ヶ月分）</p>
7月	<p>7月13日：受託者（食品提供）の可否決定</p> <p>7月下旬：ご家庭への「8月分のお届け食品等」を倉庫へ配送</p>
8月	<p>8月下旬：ご家庭への「9月分のお届け食品等」を倉庫へ配送</p>
9月	<p>9月末までに：本事業による全ての提供物品を、受託者→ご家庭へお届け完了</p>
10月	<p>事業報告</p>

※厚労省からの受託決定のタイミングによりスケジュールが変更となる可能性あり

お知らせ②

こども宅食応援団は、こども宅食事業の数を増やし、家庭や地域への前向きな変化が生まれるような事業が実施できるように、全国の団体や国と協働しながら、事業や制度の課題を解決してまいります。

全国の実施団体・自治体

事業を立ち上げる、運営する、改善に向けた試行錯誤をする



■ 現場の課題を解決するための支援メニュー開発・提供

先行事業のノウハウ集、研究・調査、食品/物資/資金提供

■ 実施団体同士が連携できる実施団体間ネットワークの構築

勉強会・研修実施、サミット等イベントでの連携強化



■ 現場の意見をふまえた制度改善のためのロビィングを実施する

現場では解決困難な課題の可視化、予算や制度の使い勝手の改善、新制度の提案

国

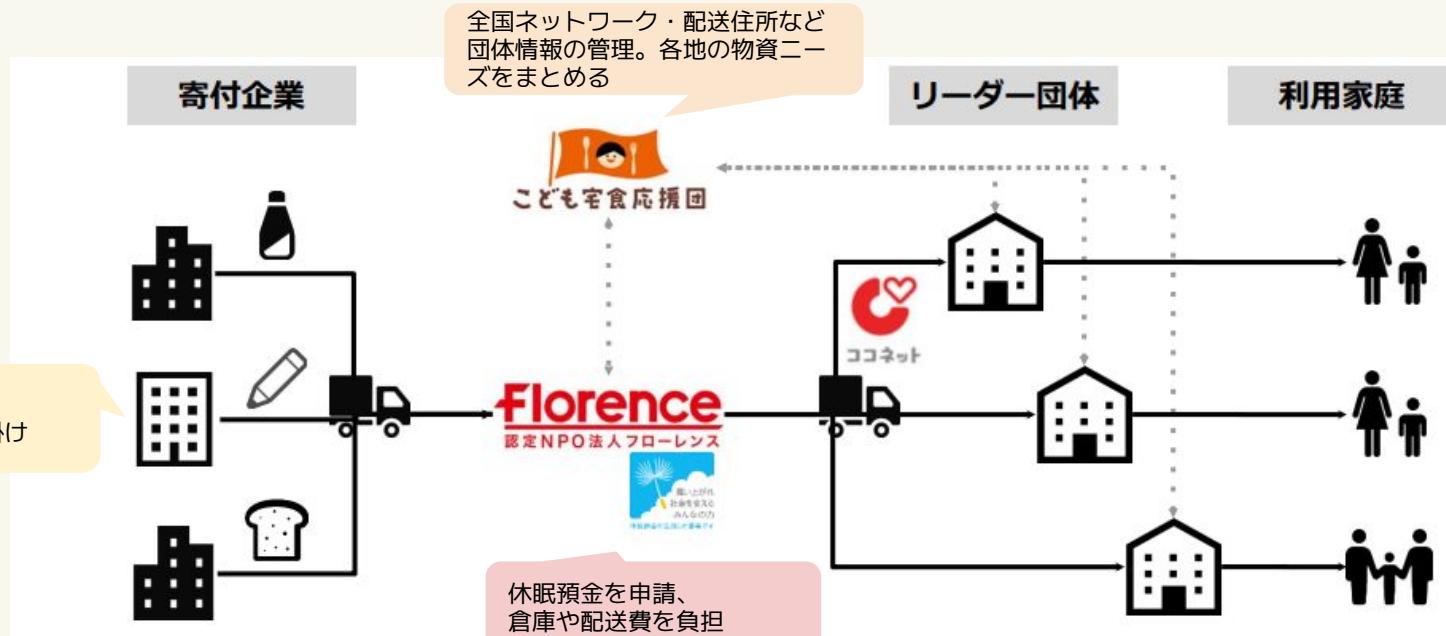
制度を設計する、変える、周知する、新しい制度を作る



お知らせ② 2団体の一体的な経営について

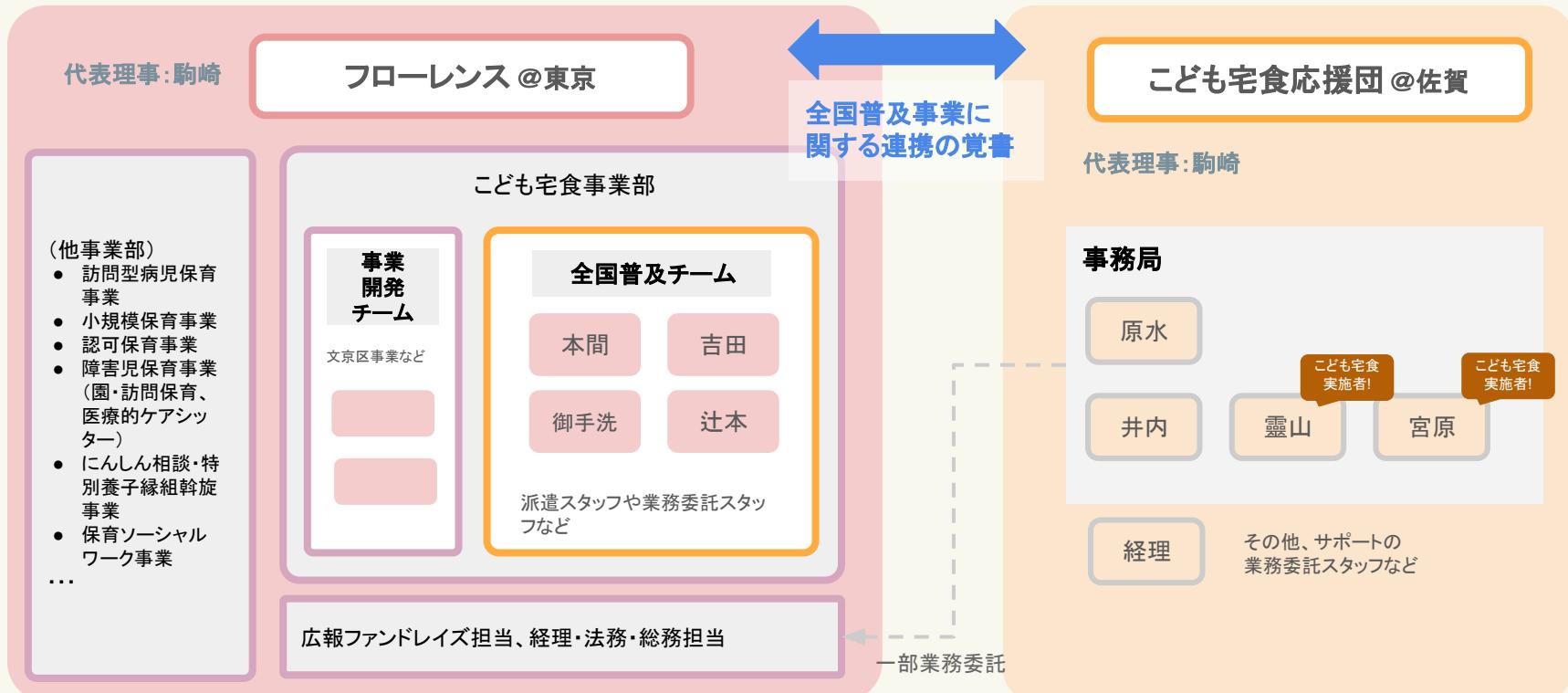
(これまで) こども宅食応援団の立ち上げ当初から、フローレンスと連携し、おたがいの得意分野を活かしながら2団体でこども宅食の全国普及を進めてきました。

例) こどもフードプラットフォーム (休眠預金事業 2020年12月~2021年11月)



お知らせ② 2団体の一体的な経営について

2021年度には連携に関する覚書も2団体で締結。コロナ禍の影響も長引くなか、社会情勢の変化や普及の急拡大に対応できるよう、今年度からは理事会の再編成などを行い、より一体的な経営を進めます。



6. おわりに

おわりに

各団体のフェーズやニーズに合わせた伴走支援を実施するにあたり、皆さんの声をお聞かせください。

後日アンケートを送付します！ぜひ、ご協力ください

実施者ネットワークのみなさんに向けたサポート



全国勉強会や
研修資料の案内



食品や日用品の
おぼそ分け



国の制度・予算や
民間助成金などのお知らせ

今後は、上記のサポートに加えて、
宅食cafe（テーマごと・エリアごと等で
自由に参加できるワイワイ座談会）の
プログラムを構想しています。

